



SSKW 巣立ちだより

最近思う事

No. 6 1

巣立ち会理事長

田尾有樹子

コロナが明けて最近最も忙しいのは精神科病院めぐりである。定期的に訪問していた病院に加え、以前巣立ちホームを使っていたが再入院をしてしまったような人たちの病院にも訪問し、ご本人が再度退院をする気がないのか確認し、その気がある場合は再度チャレンジをしてもらったりしている。

どうしても煙草のルールが守れなくて、部屋の床に焼け焦げを作って再三再四注意しても改善せず、本人の口からも「部屋で煙草を吸うことを止めない」と宣言されたとき、どうして、嘘でもいいから止めると言ってくれないのだろうと、内心ぼやいたものだった。あれから何年か経ち、病院を何カ所かめぐり、病院から巣立ち会に本人から電話があった。「退院したい」と。

こりもせず私たちもその電話で彼に会いに行き、再度巣立ち風の体験利用をしている。入院中は煙草は一切吸えない。だからこのまま止めたらどうか？という病院職員の声掛けに彼は頭を抱え「でも退院したら吸うと思うんだよな…」とぼやいていた。

なんと正直な人だろうと苦笑せざるを得ない。正直に言うと自分の退院がだめになるかもしれないのに、取りあえず、その場を取り繕うということが彼にはできない。

ある患者さんは20年間入院していて、初対面で「退院はしません」と断言された。

では、外食はどうかとの提案には乗って来て、先日はハンバーグステーキと一緒に食べに行った。食べ終わるや否や「次は寿司ですね」と念を押された。しばらく、彼女の外食に付き合おうと思った。3回目くらいには他の長く入院している患者さんを誘ってもらおうとひそかに企んでいる。

巣立ち会から老人ホームに入居し、そこで、拒薬し精神科病院に再入院になった患者さんに会った。彼女は老人ホームの方が生活するにはしやすいと感じているが、医師が処方する内科薬を飲もうとしない。散々やりとりをした挙句、飲むなら老人ホームを紹介すると言い渡して、先日は終わりにした。そのやりとりを見ていた病院ワーカーはその患者さんも田尾さんもとでも楽しそうとコメントをしていた。

確かに私は入院中の患者さんと話している時がとても楽しい。初めて紹介されるときはどんな人かとドキドキしながら会う。彼らはどの人もとても個性的で面白い。そう感じる自分自身が彼らに感じる親和性があり、似ているのだと思うのである。

彼らの境遇は決して他人事ではない。もし私が発症していたら……。決して病院の職員の言うことを素直に聞いて、従順な生活を送らない。入院は長期化してしまうだろうと容易に想像がつく。彼らの人生は私にとって他人ごとではないのである。

上野千鶴子氏講演会「女性はなぜ生きづらいかー支援の脱心理主義化に向けて」



壇上の上野千鶴子氏

上野千鶴子先生のことを知らない人はいるだろうか。上野先生といえばそう、東京大学名誉教授であり、日本のフェミニズムの第一人者である社会学者であり、日本で最も著名なフェミニストの一人である。そんな上野先生と巣立ち会の理事長は、共通の友人を介して知り合いになったそうで、お住まいも近く、すぐに友人になったという。想像に難くないと思うのだが、407名の参加者を前にしても、二人の存在感は抜群で、なんとも言えない雰囲気漂うなか、講演会は始まっていった。

上野先生の話は、鋭く、聞いていて痛快である。フェミニストの視点から、現代社会の問題を炙り出してくれる。日本の現在のジェンダーギャップ指数は118位と、政治と経済の分野で極端に女性の地位は低い。国力を表すGDPは世界4位に後退し、家族像や結婚観は変化してきており、日本の将来は不透明で希望を見出

すことが難しい時代になっている。上野先生は、こんな社会に一体だれがしたのか、と問う。

このような社会問題は、社会構造と無縁ではないだろう。フェミニズムは女性の生きづらさを、女性に問題があるのではなく、女性を生きづらくしている社会構造にこそ問題があることを提起し続けてきた。

ではフェミニズムは、(女性の)心理的困難をどのように考えているのだろうか。講演会で配布された資料において、上野先生はそもそも心理学の保守本流はフェミニズムから影響を受けているようには見えないと断言する。確かに、心理士の養成課程において、フェミニスト心理学やフェミニスト・カウンセリングについて聞くことは皆無であるし、アカデミズムが男性中心であることが明白であることを考えると、心理療法の理論や実践において既存社会の中心的な価値観が入り込んでいることは疑いようがないと言えよう。

フェミニストたちの「問題はここではなく、権力に、差別に、構造にある」という声は、一体いつになったら心理学者や心理士に届くのだろうか。そしていつになったら日本の心理学関係者は、社会変革に資する活動に取り組んでいくのだろうか。上野先生の話をもっと聞いてみたい、そんな風を感じた、あっという間の講演会であった。(大野)

大澤達哉氏講演会「松沢病院における精神科救急の取り組み」

個人的な話になりますが、個人情報もあるので詳細は明かせませんが、大澤先生にはある方の支援をめぐり、大変お世話になりました。難治ケースとも言える方への細やかな配慮や気づかいは、立場の違いを超えて支援者としては、とても心強く安心できるものでした。まずはこの場を借りてお礼申し上げたいと思います。

さて、今回の講演会では松沢病院の概要から精神科救急の流れまでを資料を使って説明いただいた上で、大澤先生が日頃行っておられる松沢病院での実践や苦労話などをざっくばらんにお話いただきました。聞く側としてはハラハラする場面もありましたが、大澤先生が考える精神科救急のあり方やその現状に危機感を抱いておられる姿勢などが、私自身も実感を持って感じ取ることが出来ました。同時に講演を聞いた多くの人も同じ思いを抱いていたであろうことが、講演後の質問からも感じ取れました。

大澤先生が講演の中で強く仰っていた「松沢病院が行き場のない患者さんの受け皿にならなければならない、あの滝山病院からの患者さんの転院先が本来は松沢病院でなければならなかったのではないだろうか、受けることが出来なかった



講演中の大澤医師

のはなぜか」と自問自答されている姿は聞いている者の心を強く打ちました。

講演の最後には新人職員が入職してきた際の研修会についての事例を参考に、医療従事者として本当に大切なものは何か、患者さんの尊厳を守るためにはどうすべきかなど私たち地域の支援者たちにも訴えかけてくる内容の話でした。院内研修での「行動制限を最小化することがなぜ必要か、それは異常なことだから」という姿勢、「あなたが、何もない部屋に閉じ込められることを」想像して、それを「あなたの大切な人」に置き換えて考えてみる、日頃私たちがメンバーさんと接するうえでも同じような視点を持ち、常に想像力を発揮しながら支援していく気持ちを決して忘れてはならないと思いました。（山本）

吉祥寺病院・原藤先生講演会

令和6年3月11日、吉祥寺病院名誉院長でいらっしゃる原藤先生をお招きし、巣立ち風とオンラインのハイブリッドで講演会を開催しました。

巣立ち会設立の際、原藤先生には多大なご尽力をいただき、その後も法人顧問医、理事を、現在も法人評議員を務めてくださっています。私がグループホームで世話人をしていた時には、顧問医として毎月、夕食会で利用者の診察をしてくださいました。一人ひとりに「調子はどうですか？」「元気にやってください」と、優しく声をかけていらっしゃったことを思い出します。



吉祥寺病院名誉院長の原藤医師

今回の講演会は、先生の人生観の核となっている「孔子」の話から始まり、先生の生い立ちや精神科医師としての取り組み、大事にしてこられたことなど、これまでお聞きすることがなかったお話ばかりでした。中でも、特に印象に残った言葉は「社会が患者さんを認めなくてはいけない」「認知機能障害は社会との接点が大事」ということです。精神障がい者の人権が無視され、ひどい扱いを受けていた時代に、患者さん一人ひとりを認め、温かく交流する場を創り出してこられた先生の姿勢に、深く感銘を受けました。

今年、先生は白寿を迎えられますが、病院でお会いする時はいつも姿勢よく、颯爽と歩いていらっしゃいます。これからもますますお元気で、日本の精神科医療のパイオニアとして、また、地域で働く私たち支援者のよき理解者として、ご指導、ご鞭撻いただきたいと思います。

（佐藤）

令和6年5月13日、6月4日に、巣立ち会の新人研修を実施しました。5月は、日頃の利用者支援について入職4年目の職員が講師を務めました。前半はスライドを使いながら「バイスティックの7原則」の講義、後半はグループに分かれ、7原則で特に印象に残ったこと、日頃の支援の中での困りごと、対応で迷ったこと等を話し合いました。それぞれのグループには事業推進委員がファシリテーターとして入り、新人職員の話に共感したりアドバイスを送ったりしました。「障害福祉分野で働いたことはあっても、精神障がい者の支援は初めて」「高齢者の支援は経験があるけれど、障がい者は初めて」「福祉分野そのものが初めて」と、職員それぞれの経験値は異なりますが、「よりよい支援をしていきたい」という想いは共

通で、グループワークは30分では足りないほどでした。

6月は、田尾理事長による「巣立ち会の理念について」の講義でした。昨年2月の滝山病院事件の話から始まり、日本における精神科医療の現状、巣立ち会の支援の根底にあるもの、今後の事業の展望などを盛りだくさんの内容で終了予定時刻を過ぎましたが、皆、メモを取りながら最後まで熱心に聞いていました。日本の精神科医療の現状を知らなかった職員が多く、諸外国に比べて日本は病床がかなり多いこと、入院期間が長いことを聞いて驚いた職員が多かったようです。

私自身、久しぶりに理事長の講義を聞き、改めて「巣立ち会の使命とは何か」を考え、自分の支援を振り返る機会となり、身が引き締まる思いがしました。

(佐藤)



今年度の委託事業・助成事業

今年度も巣立ち会では、幅広いニーズに応えるため、障害福祉サービス事業以外の委託事業、助成事業を数多く行っています。

東京都精神障害者地域移行体制整備支援事業

例年、野の花が東京都からの委託で実施している精神障害者退院促進事業ですが、今年度は、病院を対象にピアサポート活動の推進を「ピアサポーター活用アドバイザー事業」を新たに受託しました。この事業では、精神科病院の病棟に医療側と患者の橋渡しをする当事者（ピア・ブリッジャー）を派遣したり、院内で退院して地域で暮らす当事者による体験談発表を行います。

また、グループホームの居室を用いて、おもに精神科病院入院中の方が退院前に地域生活を体験を行う「グループホーム活用型ショートステイ事業」も開始しました。

思春期・青年期の若者に対するシームレスな支援体制構築事業

「赤い羽根福祉基金」の助成事業として実施します。メンタルヘルスの困難をもつ若者に対して、障害福祉サービスのように精神科受診を条件とせず、居場所の利用や相談面接、学習支援などを行います。また、こうした切れ目のない支援の制度化を目指して、近隣行政への働きかけを行ったり、大学生などの若者やそ



成蹊大学での体験発表

の家族に向けた啓発活動を行っています。7月9日には、成蹊大学の「武蔵野地域研究」（澁谷智子教授）の講義において、巣立ち会で若者支援や復職支援を受けた経験のある当事者3名による体験談発表を行いました。

「生活困窮者や若者等に緊急避難場所や相談・就労体験を提供する事業」など

独立行政法人福祉医療機構（WAM）の助成事業です。この事業は、①緊急に起こる住まいの問題を抱える方への、その後を考えるための一時的な住まいの提供、②メールおよび電話での「なんでも相談」、③若者の就労体験や地域活動の場の創出、の三本柱になっています。

その他、狛江市からは若者や障害者雇用で働く市職員の相談事業、三鷹市からは引き続き「りんくる」（三鷹市生活保護受給者居場所づくり事業）、三鷹市および調布市の子どもの食の確保事業（子ども食堂）など、幅広い対象者に向けた事業を行っています。（植田）

恋人をつくろう！クリスマスパーティー 2024

去年に引き続き、今年も「クリスマスパーティー」を開催します！日程は12月1日（日）、会場は武蔵野スイングホールのレインボーサロンです。このイベントは、病気や障害があっても「主体的に自分の人生を生きてほしい」という巢立ち会の考えから生まれたものです。去年は約4年ぶりの開催ではありましたが、約80人の方々が都内外から参加していただきイベントを行うことができました。開催後には「楽しかったです、また来年も参加します。」とスタッフに直接声をかけてくださった方もいれば「内容自体がイマイチだった。」と厳しいご意見もありました。率直な意見をくださったことにとても感謝しています。ありがとうございました。

今回開催するにあたりイメージしていることは「出会いの場」です。具体的には、恋愛に限らずもっと広い意味で人と人が

出会い、繋がることのできる場をつくりたいと考えています。そのため、新しい出会いがほしい、友達をつくりたい、誰かと話したいなど考えている方もぜひ気軽に足を運んでください。また、去年は「恋人をつくろう！クリスマスパーティー」というイベント名でしたが、今年はいちより多くの方に楽しんでもらえるよう内容も考えていきます。具体的な内容については企画中ですが、去年アンケートでいただいた意見も取り入れてつくっていきますので楽しみにしててください。

私自身は今回2回目の実行委員になりました。自分自身も楽しみながらこのイベントに参加したいと思います♪ 去年参加した方も初めての方も大歓迎ですので、ぜひご参加ください。友人やお知り合いの方を誘っての参加もお待ちしています。今年もよろしくお祈いします。（吉澤）



巣立ち会 賛助会からのお知らせ

巣立ち会 賛助会 令和5年度収支報告

収入		支出	
項目	金額	項目	金額
会費収入	1,720,284	事務費・支払手数料	124,275
受取利息収入	23		
前期繰越金	7,283,151	次期繰越金	8,879,183
合計	9,003,458	合計	9,003,458

【令和5年度・令和6年度分として 順不同】

波多野洋子様、北野尚宏様、北野清子様、佐藤弘章様、姫本昭夫様、山崎秀子様、村田眞男様、村田眞様、村瀬信子様、糠信涌子様、河田博様、会田孝太郎様、渡辺浩二様、渡辺正徳様、桜井錠治様、株式会社 円グループ様、加藤佐敏様、和田成子様、小林靖宜様、藁谷みち子様、田村博様、阿部康代様、塚本優子様、栗原美穂子様、岡崎秀昭様、飯野和典様、加藤力弥様、かささぎ会 江頭由香様、梨木信彦様、青木鉄次様、大坪節子様、熊井秀哲様、檀上亮爾様、谷部淑子様、高坂正男様、濱田眞雄様、大島巖様、井上征治様、井上廣子様、渡邊衡一郎様、吉田章代様、松石俊郎様、株式会社 東部第一様、山田昭徳様、松原のり子様、白内美和子様、星野和子様、小野正枝様、笠井清登様、吉野京子様、伊東暁子様、江戸川啓史様、中村克美様、熊谷スミエ様、櫻森輝文様、高田美智子様、滝澤宏子様、倉持和宏様、

〈令和6年1月11日から令和6年6月26日到着分〉

たくさんの方々から、会費や寄付をいただいております。ご支援ありがとうございます。

巣立ち会の活動にご協力をお願いします。

賛助会費

- 年会費 一口 3,000円
- 郵便振替 口座番号 00140-4-542860
- 加入者名 巣立ち会 賛助会

巣立ち会 賛助会 会長 松岡恒夫

編集後記

今回の号は講演会の報告記事が満載です。どの講演会も素晴らしかったのですが、なかでも6月に上野千鶴子氏の生の声を聴くことが出来たのは私にとっては貴重な時間でした。

講演のなかで仰っていた現在の社会システムは確かに男性が作り上げたもので女性にとっては不利益極まりないことばかり、昭和の私世代などは、その最たるもので気づくことすらできなかった自分がいます。

聴衆の多くが女性だったこともそれを象徴しています。私が言うまでもなく時代は女性を欲しています。
(山本)

発行所 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-1-17
ヴェルドゥーラ祖師谷102
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
定価 50円
編集 社会福祉法人巣立ち会
〒181-0014 東京都三鷹市野崎2-6-42
電話 0422-34-2761
E-mail: sudachi-kaze@sudachikai.or.jp
http://sudachikai.eco.to/